



人とかかわる力をはぐくむための援助のあり方

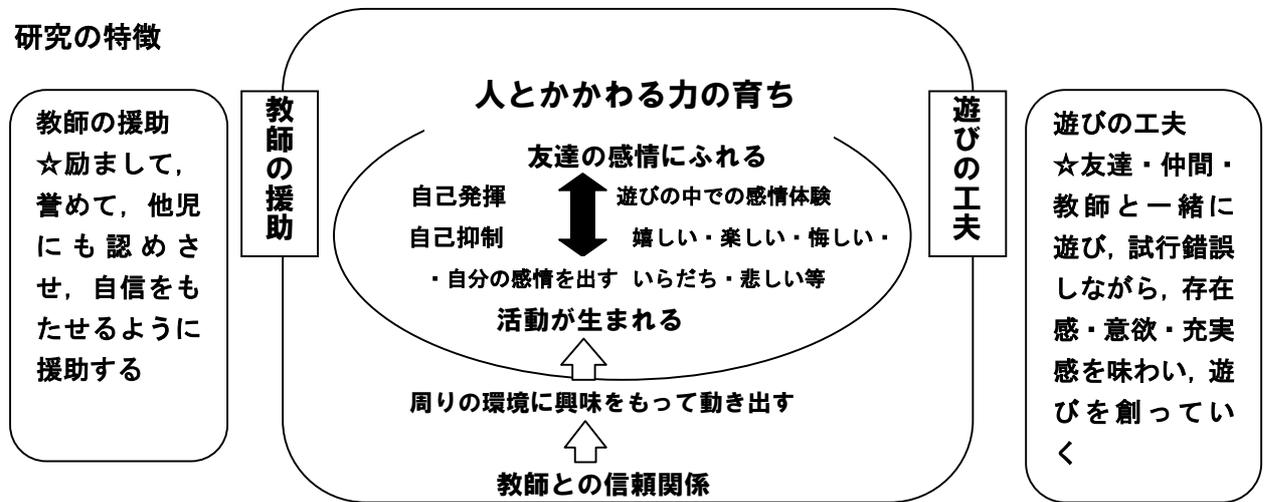
～園における遊びを通して～

南風原町立津嘉山幼稚園 松本 完子

1 研究の目的

これまでの保育を振り返ると、教師の計画通りに活動をさせることにとらわれ、集団をまとめようとして幼児の心の声に耳を傾けるのが、不十分であった。幼児に適切な援助をしてきたかどうかと反省した。そこで、園生活の遊びを通して年間を見通した「人とかかわる力をはぐくむための教師の援助の工夫」を探りながら保育実践を繰り返し行い、保育の改善を図る。

2 研究の特徴



3 保育実践



① 表現遊び



② 親子ムービーづくり



③ 正月遊び

4 研究の成果

- ① 教師が援助や遊びの工夫をしたことで、人とのかかわりをはぐくむことができた。
- ② 3回の保育を通して、幼児の変容が見られ、人とのかかわりが育った。

〈幼稚園教育〉

人とかかわる力をはぐくむための援助のあり方 —園における遊びを通して—

南風原町立津嘉山幼稚園 松本 完子

I 研究の目的

今日的課題

現代の幼児を取り巻く環境は、核家族化、少子化、都市化が進み、変化してきている。また、共働き世帯が多く、ゲームやテレビを見て過ごす時間が長く、親子の会話やコミュニケーションが不足してきている。そのため、地域での遊びが減り、ひとり遊びや兄弟のみで遊ぶことが多くなって、人とのかかわりが少なくなっている。そして、祖父母や隣近所及び地域の人達とのかかわりも希薄化してきている。友達といっしょに過ごす園生活の中では、順番を守ったり自分と周りの人との折り合いを付けるといったことができない幼児が多い。そういった規範意識や倫理観に欠けている子が増えてきているということが、今日的課題である。

幼稚園における遊びとは

「幼稚園教育要領解説書」によると、幼稚園における遊びは、「心身の調和の取れた発達の基礎を培う重要な学習である。幼児にとって、自主的な活動であり、遊びを通して人とかかわる力、思考力、感性や表現する力をはぐくまれる。遊びを中心とした教育を実践することが大切であり、一人一人の幼児が教師の援助の下で主体性を発揮して活動を展開していく」と述べられている。幼稚園では、幼児は遊びを通してさまざまな人とのかかわりを経験し、そして他の幼児とかかわって、考え、感じ、表現できる力をはぐくむことが求められている。幼児の基本的な人とのかかわりのあり方は、「自分の気持ちを出すこと」「自分の気持ちを抑えること」「他の子の気持ちに気付くこと」である。さらに人とかかわる力は、社会で生き抜く力につながっていく。幼稚園教育の充実を図るには、乳幼児時期から幼児期、幼児期から児童期への発達の流れに対応し、その連続性を確保しながら幼稚園教育の展開を考え、そのためには、小学校教育との円滑な接続を図るとともに、幼稚園において協同する経験や規範意識の芽生えなどに関する指導の充実を図りその育ちを小学校教育につなげていくことが必要である。

これまでの保育

これまでの保育を振り返ってみると、教師の計画通りに活動をさせることにとらわれてしまい、集団をまとめようとし、「これは・・・ですよ」「スピードをあげて」などの幼児の心の声に耳を傾けるのが不十分であったのではないかと、思いや気持ちに寄り添い、意図した学びである遊びをしてきたかどうか、また、幼児に適切な援助をしてきたかどうかと反省する。

本研究において

そこで、園生活の遊びの中で、葛藤や折り合いを付けるなどの「人とかかわる力をはぐくむための教師の援助」について考えようと思い、本テーマを設定した。

II 研究の目標

園生活の遊びを通して、年間を見通した「人とかかわる力をはぐくむための教師の援助の工夫」を探る。

Ⅲ 研究の方法

保育実践の園生活の遊びにおいて、次のような方法で行う。

- 1 年間を見通した領域「人間関係」に関する指導計画の作成
- 2 人とかかわる力をはぐくむための保育の実践

Ⅳ 研究内容

1 年間指導計画作成における基本的な考え方

年間指導計画を作成するにあたっては、保育者が幼児と共に生活する中で、幼児達が今、何を必要とし、どのような育ちに向かっているのか、その育ちを保証するために必要な環境や援助を意識して作成することが基本である。

(1) ねらいと内容について

幼稚園教育要領では「具体的なねらい及び内容は、幼稚園生活における幼児の発達の過程を見通し、幼児の生活の連続性、季節の変化などを考慮して、幼児の興味や関心、発達の実情などに応じて設定すること」と示されている。

「ねらい」は、幼児の思い（心情）、やってみたい（意欲）を大切に、そこから身に付いていくもの（態度）を育てていくための方向性を見通したものである。「内容」とは、ねらいを達成するための、幼児達にとって、必要な経験を具体的に考えたものである。

(2) ねらいと内容を実現させるための「環境構成と援助」

ねらいと内容を実現させるために考えるものが、「環境構成」である。環境は、物的環境・自然環境・人的環境・雰囲気・時間などをいう。指導計画を立てる上では、環境を考えて、見直ししていく必要がある。さらに、保育者の援助が大切であり、言葉をかけたり具体的にやり方を見せたり、幼児の気持ちに気づき、共感したり励ましたりすることが必要である。そして、共に遊んだりして遊びの深まりや仲間関係の広がりが必要な援助をすることが、ねらいと内容を達成することになる。上記のことを踏まえた上、作成した津嘉山幼稚園の年間指導計画を報告書の最後のページに記載した。（47ページ）

2 人とかかわる力をはぐくむとは

(1) 人とかかわる力

幼稚園教育要領解説書によると、幼児期における、人とかかわる力の基礎は、「自分が保護者や周囲の人々に温かく見守れているという安定感から生まれる人に対する信頼感をもつこと、さらに、その信頼感に支えられて自分自身の生活を確立していくことによって培われる。」と述べている。

まず、幼稚園生活で人とかかわる力をはぐくむには、教師との信頼関係を築くことが必要である。幼児は、教師との信頼関係を基盤としながら幼稚園生活を自分の力で行なうことの充実感や満足感を味わう。幼児は、幼稚園生活を共に過ごす教師がいることで、他児への関心も広がり、かかわり、遊びや生活を通して、人とかかわる喜びが味わえるようになる。

幼児は、他児とのかかわりの中で、様々なことを通して自分と他児は同じでないということに気付くようになる。また、遊びや幼稚園生活の中で、自分の思いや考えを押し通そうとするあまりに、他児と衝突し、欲求のぶつかり合いや喧嘩が葛藤体験を生み出す。

そのようなときに教師は、幼児を肯定的に受け止め幼児の心に寄り添うことで信頼関係の絆がはぐくまれる。さらに、幼児のよさを認め、他児への架け橋的な援助は、自分が認められているという安心感から、他児とかわらうとする気持ちを芽生えさせる。

そのような教師の援助には、幼児の内なる力を信じ、人とのかかわる力をはぐくむ構えを導き出すことにつながっている。また、幼児自身も他児を受け入れ、自分の思いや考えを伝えることの喜

びが味わえるようになるとともに、相手の立場や気持ちを理解しようとする姿勢がはぐくまれる。このような他児とのかかわりは、自分自身を理解してもらい認められたという実感が伴い、幼児自身の人とのかかわりにおいての自信となる。

この自信を基盤としながら幼児は、教師や友達と共にいる楽しさや自分がやりたいことに興味や関心をもって環境にかかわり、活動を生み出す。その活動を楽しみながら展開し、自分の力で行う充実感や満足感を味わい、人とかかわる力がはぐくまれていくものと思われる。

(2) 人とかかわりの基礎

また、多様な感情体験や活動体験は、他児とのかかわり幼稚園生活を過ごす中で、生活に必要な行動のあり方や人とかかわり方が身に付き、何事にも立ち向かい友達と楽しく充実した幼稚園生活をおくることの楽しさを味わえるようになると思われる。

森上史郎氏は、『保育関係人間関係』の中で、「人とかかわり」は、生きる力の原点である。と述べている。

まず、人とかかわりの基礎は、家族で両親・兄弟の身近な“ひと”である。

そして、いまここにいる自分を中心に広がっている。

次に幼児は、“地域の子”として、地域の中で生活をする。そこには、いっしょに遊んだり生活したりする仲間がいる。その生活において時には、自分の要求を主張し、周囲の人達の要求も感じとらなければならないこともある。

しかし、最近ではそれが希薄になっているともいわれている。

その要因として、少子化の影響もあるが、幼い頃からひとりで遊び、兄弟のみで過ごすことが多い幼児達が多数である。そのような状況においては、図1に示している、○○のような人とかかわりをはぐくみ、ふみ固めることへの環境は乏しい。そのような環境を察し、補完してく幼稚園教育への課題は大きい。

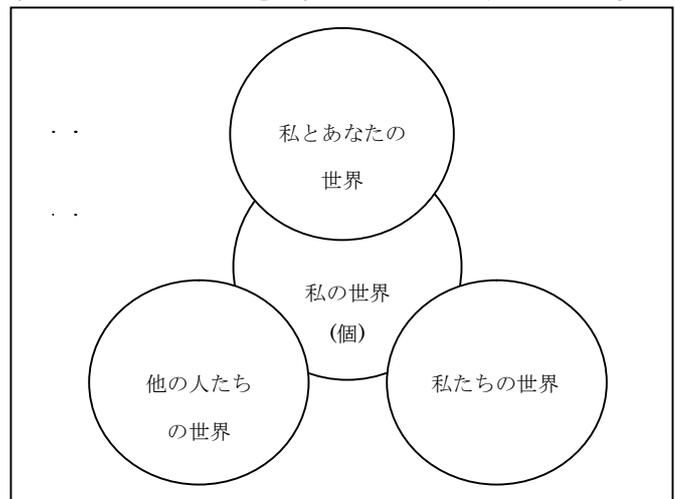


図1 さまざまな人とかかわりの模式図

3 援助について

(1) 架け橋的な援助をする

幼児は、他の幼児と遊びや生活を共にすることで、楽しさや喜びを味わう。また、葛藤や挫折感を味わいながら、自分の気持ちや相手の気持ちに気付くようになる。そのような自己主張によるぶつかり合いにおいては、それぞれの幼児の主張や気持ちを受け止め、互いの思いや考えが伝わるように、架け橋的存在を担いながら、それぞれの幼児が納得して気持ちの立て直しができるような援助が必要である。

幼児は、幼稚園生活において他児と楽しく過ごしながらも、いざこざや葛藤体験を通して成長していく。いざこざや葛藤体験においては、教師が仲裁に入り、ことの起こりと、問題解決に向けて早急に解決していくのではなく、それについて考えたり、話し合ったりする機会をつくり、双方の思いや考えを伝えあう機会をつくることも大切である。問題解決に関しては、単なる知識として解決にあたらうとしたり、幼児の行動を規制して終始させるのではなく、幼児同士が十分にかかわり、納得した解決策へと方向づけ、また、幼児自身に体験を通して感じさせたり、気付かせたりしながら援助していくことも大切である。

(2) 相手の思いや考えを受け入れる

さらに、個々の幼児が自分の思いや考えを押し通し、一方的な方法で問題解決をしていくのでは

なく、相手の思いや考えも受け入れることができるように促していくことも必要である。そのようなとき教師は、幼児の言葉のやり取りが激しかったり、長時間のやり取りの中で、自己中心的に、自分の思いや考えを押しつけ、他児を傷つける様な事態にならないよう仲立ちしていくことも必要である。

また、幼児がなかなか気持ちを立て直すことができない場合は、教師が幼児の心の拠り所となり、適切な援助をしていくことも必要である。

援助の視点について

幼児が人とかかわる力をはぐくむためには、**幼児理解を踏まえた教師の援助が重要となる。**

幼児一人一人の特性や課題に応じて発達を援助していく教師の役割とは、

※教師の役割

- (1) 活動の理解者として・・・一人一人の発達やこれまでの生活経験，周囲の物や人との関係をとらえ、活動の意味を理解し心境に共感する。
- (2) 共同作業者として・・・幼児の行動の意味をとらえ、心情に共感する。
- (3) モデルとして・・・教師の言動は、憧れを形成する。教師の一人一人を大切にす姿勢が幼児同士の互いを大切にす姿勢につながる。
- (4) 遊びの援助者として・・・一人一人の発達に応じた援助の仕方やタイミングを考え、行う。
- (5) 集団生活における・・・個と集団の関係をとらえ、幼児が発達に応じて様々な経験ができるようにする。

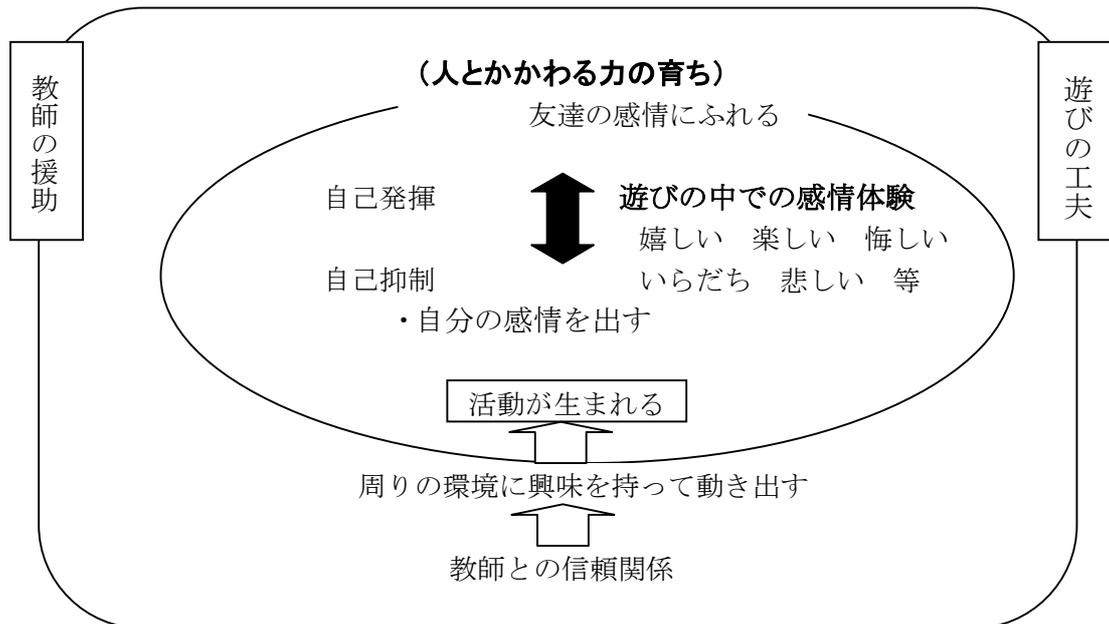


図2 人とかかわる力の育ちのイメージ図

4 遊びについて

(1) 遊びは重要な学習・遊びの中に学びがある

幼児期の生活のほとんどは、遊びによって占められている。遊びは、幼児が自発的、能動的に環境にかかわることから生まれる。幼児が夢中になり主体的に活動できている状態である。幼児の自発的な活動としての遊びは、心身の調和のとれた発達の基礎を培う重要な学習である。遊びは、幼児の生活そのもので、さまざまな要素を含んだ“総合的”なものとしてとらえて指導する必要がある。遊びを中心とした生活を通して生きる力の基礎をはぐくみ、さまざまな力の芽生えを培うことが幼児教育の目的である。幼稚園は集団生活の場であり、幼児が仲間と共に環境にかかわり、遊び

を創り出し、楽しさや喜びを得ることで、発達がバランスよく促されていく。また、遊びは失敗も挫折も葛藤もトラブルもすべて含んでいる。また、学校教育法では、遊びは重要な学習であるという視点が出されている。遊びの場面と学習の場面に分けて園生活で指導するのではなく、**遊びの中にこそ学びがある**。幼稚園では、時期にふさわしい環境を用意し、環境に幼児自らがかかわって生み出すのが「遊び」である。幼稚園での遊びは、目的や計画に基づく組織的な遊びをいう。

(2) 遊びには「気づき・試行錯誤・発見・予測・納得」がある

幼児の遊びには、『気づき・試行錯誤・発見の喜び・予測・納得をする』などという循環を分けて幼児に遊びを通して、発達に必要な体験を深めていくのである。また、同じ遊びをしていても、一人一人の幼児の発見や思いが多様であることが特徴である。教師は、自分と違う他の幼児の発見や思い、表現や言葉などにふれられるように、遊びに近づいて「何におもしろさを感じているのか」「仲間とのやり取りはどうか」ということを読み取る余裕をもつことも必要である。それから、遊びを援助して、学びや遊びを援助して、学びを広げたり、深めたりすることが重要である。

そのため、教師は遊びを教えこむのではなく、幼児が遊びを繰り返されるように、幼児といっしょに遊びを創り出していくことが重要である。

V 研究の実際

幼児が意欲的に活動するために、「遊びの工夫」と「教師の援助」を工夫し、3回の保育実践を行い、改善を図る。

1 保育実践①「表現遊び」(12月)

(1) 活動名 「エイサー、楽しいな」

- ① 保育のねらい
 - ・表現遊びを楽しむ中で、友達のよさを見つける。
- ② 検証のねらい

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・表現遊びを通して、人とかかわることが高まるような援助を行なう。
具体的な遊びの工夫・教師の援助	<p>【遊びの工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共通の目的に向かい、成し遂げることを主題とする絵本の用意 ・表現遊びは楽しいなと思えるような環境の構成 ・歌の歌詞を書いて、掲示する ・友達・教師・地域の人達など、いろいろな人に関心をもつ環境の構成 <p>【教師の援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一生懸命に取り組んでいる子、ダイナミックに取り組んでいる子を認め、誉めて他児にも知らせる。 ・友達とのかかわりが苦手な子も他児といっしょに取り組んでいるかを把握し、言葉かけをして励ます。 ・言葉かけ（励まし）や動きやすいように(場の取り方等)配慮する。

(2) 実践計画と結果 領域「人間関係」のねらい

- ① 幼稚園生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう。
- ② 身近な人と親しみ、かかわりを深め、愛情や信頼感をもつ。
- ③ 社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける。

月 日	検証の ねらい	予想される 幼児の活動	○遊びの工夫 ★援助の工夫	実際の 幼児の姿	検証結果	領域の ねらい
12 月 3 日 (金)	・他児といっしょに活動に取り組むとに関心・意欲をもたせることができたか。	・絵本を見る。 ・教師の踊りを見る。 ・用具の説明を聞く。	★絵本を通して子ども達の気持ちが高まる環境作りをする。 ★大きな動作で踊ることによって表現する楽しさを伝える。 ★自ら踊ってみたいくなるような言葉かけをする。	・絵本の主題をつかみ、これまでの経験で同じ活動に気がつく姿が見られた。 ・教師が踊る姿を見て、真似をして踊り、その子なりの表現を楽しんでいた。	・絵本、踊りを紹介する中で、表現遊びに対しての興味、関心が高まり、意欲をもつようになった。 ・集中させることができなかった。	①
12 月 7 日 (火)	・他児とのかかわりに関心・意欲をもたせることができたか。	・曲を聞く。 ・ハヤシを覚える。 ・1曲目の「7月エイサー」に取り組む。	○踊りたくなるような環境づくりをする。 ★踊ることに慣れるように言葉かけをする。 ★上手に踊っている子に対し、みんなの前で誉めてあげる。	・子ども達は、とても意欲をもって取り組んでいた。	・表現遊びに興味、関心が高まり、意欲をもち、他児とかかわっていた。 ・環境構成、援助の工夫に深まりがなかった。	①
12 月 9 日 (木)	・友達とかかわりを持ち、なお、クラス全体で取り組む意欲がもてたか。	・前回に踊った1曲目を踊ってみる。 ・2曲目「年中口説」に取り組む。 ・ハヤシも入れて踊る。 ・踊る側、見る側になり互いに見せ合う。	○用具の取り扱いについて、子ども同士で話し合う場を作る。 ★話し合いがうまく進むように言葉かけをする。 ★上手に踊っている子を観察し、他児の前で賞賛をする。 ★友達のよさについて気づかせるように言葉かけをする。	・子ども達で話し合いをする中で用具の扱い方を認識できるようになった。 ・歌も歌いながら、取り組んでいた ・友達のよさに気が付いて認め、他児にも知らせていた。	・話し合いをし、用具の扱い方について他児の提案を聞いていた。 ・子ども達は友達のよさを認め合っていた。	③
12 月 14 日 (火)	・友達とかかわりを持ちながら、踊る楽しさを知るようになったか。	・前回に踊った2曲目を踊ってみる。 ・初めから最後まで取り組む。	○踊ることは楽しいなと思える環境づくりをする。 ★祖父母にも話題とし、表現遊びの楽しさを伝えるように言葉かけをする。	・その子なりの踊りで、笑顔で楽しんでいた。 ・遠くにいる祖父母には、電話で知らせるよう促すと嬉しそうだった。	・ほとんどの子が、のびのびとその子なりの表現の楽しさを知るようになり、友達とかかわりがもてた。	②

<p>【考察】・ 気の合う友達同士やグループの友達と踊って、表現遊びを楽しむ中で、存在感の嬉しさが友達といっしょに活動したいという意欲につながった。(成果)</p> <p>・ 話し合いをすることにより、幼児が自分の思いや考えを話して、他児の提案に耳を傾けたりすることができ、友達とかかわるきっかけとなり、意欲へとつながった。(成果)</p> <p>・ 活動を振り返る場をもち、友達のよさを認め、クラス全体へ言葉で知らせたりすることを通して、友達とかかわる充実感を味わったと思われる。(成果)</p> <p>・ 一人一人の幼児の気持ちに寄り添った適切な言葉かけができなかった。(課題)</p>
<p>【改善】・ 教師がゆとりをもち、幼児の思いを十分に受け入れて、思いに寄り添った援助をする。</p> <p>・ その子なりの思いを認め、自信をもたせるような言葉かけや援助の工夫をしていく。</p>

2 保育実践②「親子ムーチャーづくり」(1月)

(1) 活動名 「親子でムーチャーづくりをする」

- ① 保育のねらい
 - ・ 親子でムーチャーづくりを楽しむ中で、様々な人のよさを知る。
- ② 検証のねらい

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 親子でムーチャーづくりをする中で、親や祖父母等、さまざまな人とかかわることが高まるような援助を行う。
具体的な遊びの工夫 ・ 教師の援助	<p>【環境の工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ムーチャーに関して、興味・関心をもたせる絵本の用意 (おにムーチャー) ・ 「ムーチャーのうた」の歌詞を書いて、掲示する ・ ムーチャー作りの手順を書いて、掲示する ・ シンメナービやゆい等、昔ながらの用具を用意し、関心をもたせる。 ・ 祖父母、親、友達の祖父母・親等、さまざまな人に関心をもつ環境構成 <p>【教師の援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 月桃の葉を洗う際、全員が経験できるようにグループごとに行うようにする。 ・ 戸惑っている子に励ましの言葉かけをする。 ・ 保護者が来ていない子への配慮として、隣にいる親・祖父母にいっしょにやってくれるよう依頼する。 ・ 親の中には、伝統行事であるムーチャーづくりを知らない親もいるので、作り方をていねいに知らせる。 ・ 祖父母、親もいっしょの活動なので、場の取り方に十分配慮する。

(2) 実践計画と結果 「親子ムーチャーづくり」

月日	検証のねらい	予想される幼児の活動	○遊びの工夫 ★援助の工夫	実際の幼児の姿	検証結果	領域のねらい
1月11日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 下準備をしていく中で、友達や教師とのふれあいを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 絵本「おにムーチャー」を見る。 ・ ムーチャーカーサを洗う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 絵本を通して子ども達の関心が高まる環境づくりをする。 ★ 由来や意義を話したり、使う用具についての話しをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歌を口ずさみながら、側の子と話しながら、取り組んでいた。 ・ 終わった後、楽しかったという声が聞こえてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 絵本を見たり、歌を歌ったりするなかで、ムーチャーづくりに意欲が出てきた。 ・ 下準備をしていく中で友達や教師とのふれあいを楽しんでいた。 	②

1 月 12 日 (水)	・祖父母や親等とのかかわりをし、ムーチー作りに楽しく参加する。	・ムーチーをつくる。 ・ムーチーをたたく間、親子でたこを作る ・ムーチーを会食する。	○つくりながら楽しさを味わえるような環境づくりをする。 ★たこ作りをしながら親子で楽しめるような言葉かけをする。 ★いろいろな人と会食をしながら、楽しさを味わえるような言葉かけをする	・親や祖父母等と会話しながら取り組んでいた。 ・子どもを見守っていた。 ・会食する中で、子ども同士・親同士話しながら取り組む姿が見られた。	・親・祖父母等、いろいろな人とのかかわりながら、生活の知恵に気付いた。 ・父母に伝統行事の大切さや継承の必要性を知らせていくことが十分にできなかった。	②
<p>【考察】・下準備をしていく中で、皆なで協力してひとつのことに取り組み、協力する楽しさを味わうことができた。(成果)</p> <p>・ムーチーづくりを通して、祖父母・親等とのかかわり、これらの人々に親しみを持ち、人とのかかわることの楽しさや喜びを味わうことができた。(成果)</p> <p>・ムーチーづくりを通して、親や祖父母等の家族の愛情に気づき、家族を大切にしようとする気持ちが育った。(成果)</p> <p>・伝統行事を行うことで、「生活の知恵」を知るようになるが、核家族化や都市化のため、その大切さを継承していく必要性を感じた。(課題)</p>						
<p>【改善】・じっくり取り組める時間や場を確保し、親や祖父母とのかかわりをもたせる。</p> <p>・教師が機会を逃さず、一人一人のよさを親や祖父母に知らせていく。</p>						

3 保育実践③「正月遊び」(1月)

(1) 活動名 「正月遊び」

(2) 設定の理由

- ① 教材観(省略) ② 幼児観(省略)
③ 指導観

人とのかかわりを育てるため、これまで実践保育①②を通して幼児が興味、関心がもてるような遊びの工夫を行ってきた。結果として、幼児の興味・関心に添って、発達に応じた教師の援助が大切であることが分かった。さらに、幼児の気持ちに寄り添いながら、援助していくことも大切であることも分かった。

そこで、今回の正月遊びでは、まず、遊びの工夫として友達同士でじっくり取り組める時間を確保し、場の工夫を行い、試したり、繰り返し取り組んだりできるような教材や素材を用意する。そして、教師の援助として、幼児の実態を把握し、見守ったほうがいいのか、直接援助したほうがいいのか、見極めながら援助していくようにする。

(3) 保育目標と検証のねらい

- ① 保育目標
- ・正月遊びをしながら、友達との会話やふれあいを楽しむ。
 - ・友達と互いのよさを認め合い、遊びを進めていく。
- ② 検証のねらい

ね ら い	・正月遊びを楽しめるような環境を設定し、友達と楽しく取り組むことができるように、一人一人の幼児の気持ちに寄り添いながら、適切な言葉かけをする。
	<p>【遊びの工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・じっくり取り組めるような時間や場の確保をする。 ・伝承遊びに取り組むことができるようにいろいろな用具(カルタ・こま・羽根つき・ケン玉・あやとり・トランプ・すごろく)を用意する。

具 体 的 な 遊 び の 教 工 師 夫 の ・ 援 助	<ul style="list-style-type: none"> ・こま回しのいろいろな回し方の工夫ができるような素材（フラフープ・空き缶等）を用意する。 ・友達同士でカルタ取り，こま回しにじっくり取り組める場の工夫をする。カルタのコーナーに座布団を敷く。 ・正月遊びに関する絵本や紙芝居・図鑑を提示する。 【教師の援助】 <ul style="list-style-type: none"> ・自分が思ったことを言葉で伝えたり友達の考えを受け入れたりすることができるように援助する。 ・遊びの様子を，教師も仲間として動きながらつかみ，ルールを確かめたり，勝負をいっしょに楽しんだりする。 ・幼児がどのように挑戦しているのか，困っていることは何かを把握し，見守った方がいいのか援助した方がいいのか見極めながら援助する。 ・繰り返し取り組んでいる子には，その頑張りを認め，励まして，自信をもたせ，友達にも知らせて，認めさせる援助をする。
---	---

(4) 実践計画と結果「正月遊び」(こま回し・カルタ取り・羽根つき・ケン玉・トランプ・凧揚げ・すごろく)

月 日	検証の ねらい	予想される 幼児の活動	○遊びの工夫 ★援助の工夫	実際の 幼児の姿	検証結果	領域ね らい
1 月 17 日 (月)	・友達とかかわるなかで伝承遊びに親しみや興味をもたせることができたか。	・言葉遊びをする(しりとりに遊び)・やってみたい正月遊びに取り組む。	○それぞれの遊びの場の確保 ★いっしょに遊び，共感しながら安全面を配慮する。	・初めて取り組む遊びもあり，興味津々であった。 ・友達を誘って，会話をしながら取り組む姿が見られた。	・正月遊びに興味・関心をもって取り組んでいた。	①
1 月 18 日 (火)	・正月遊びをするなかで友達とかかわりをもっていたか。	・室内での遊びを主に取組んでいたが，凧揚げに取り組む。	○カルタ取りのコーナーにビニールテープで枠を描く。 ★苦手意識をもつ幼児に言葉をかけてあげ，いっしょに遊ぶ。	・昨日，取り組めなかった遊びに挑戦する姿が見られた。 ・「できないからやらない」という声が聞こえてきた。	・ほとんどの子が友達といっしょに遊びに取り組んでいた。 ・中には，最初から取り組まない子がいる。	②
1 月 19 日 (水)	・遊び仲間のグループでふれあいを楽しむことができたか。	・絵本を見て，伝承遊びの楽しさを再認識する。 ・やってみたいと意欲をもち，不思議さを感じ取っている。	○こま回しのコーナーにフラフープを用意する。 ★挑戦する意欲を認め，頑張りを誉めて，他児にも知らせていき，認めさせる。	・カルタ取りでは，自分達で，字札を交代で読もうとルールを決めて，遊びを進めていた。	・気の合う仲間と思いや考えを話しながら，遊びを進めていた。 ・存分に遊べる時間が取れなかった。	②

1月24日(月)	<ul style="list-style-type: none"> 遊び仲間の友達と挑戦する中で、そのよさが分かり、いっしょに遊ぶ喜びを味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな素材を使って遊ぶ楽しさを味わう 仲間、他児、教師といっしょに遊ぶ楽しさを共感する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○こまのコーナーでは空き缶・フラフープ、カルタでは座布団を用意する。 ★見守った方がいいのか、援助した方がいいのか見極めて行う。 	<ul style="list-style-type: none"> フラフープ・空き缶・座布団を提示すると、すぐに飛び付き取り組んでいた。 こまのコーナーで空き缶を積み、遊びを楽しんでいた。 	<ul style="list-style-type: none"> 遊びの環境構成を工夫したことで、遊び仲間の友達とかかわり合いながら、自分たちで遊びを発展させていた。 	②
1月25日(火) 本時	<ul style="list-style-type: none"> 励まし合い、友達と心を通い合わせながら遊んでいたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 声をかけたり、励まし合ったりしながら、遊びに取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各々の遊びが存分に遊べるスペースの確保。 ★素材を使い、遊びの楽しさに気づかせるような言葉かけをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 凧揚げに取り組む子が多かったが、自分達でルールを決めて進めていた。 素材の準備が十分でなく、遊びに深まりがなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 子ども同士が励まし合う姿は、見られなかった。 心を通い合わすまでには、至らなかった。 	②
1月26日(水)	<ul style="list-style-type: none"> 友達と互いのよさを認め合って遊びを進めていたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達の得意なものが分かり、技やコツを教え合って取り組む。 仲間、他児、教師といっしょに遊ぶ喜びや楽しさを味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○時間・素材・場の設定の配慮。 ★十分に楽しめるよう、多くの人とかかわるように援助していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 時間を十分に確保しての展開なので、自分達で遊びを進めている。 こま回し大会で、チャンピオンになる秘訣は粘り強く頑張ることが分かる。 	<ul style="list-style-type: none"> クラス全員で友達を励ます姿が見られた。 こま回し大会を通して友達のよさを認め、分かった。 	②



(5) 保育の展開

<p>幼児の姿</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・正月遊びに興味を持って取り組む姿が見られる。 ・保育室でカルタ取りやこま回し等で友達といっしょに遊んだりしている。 ・「・・・さん、～の遊び、いっしょにやろう」と、友達を誘って取り組む姿が見られる。 	
<p>ねらい</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人が十分に力を発揮し、互いに認め合いながら遊んだり、活動を進めたりする。 	<p>内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の力を発揮したり、友達のよさを認めたりする。 ・友達の考えを認めたり、頑張っていることを励ましたりして、いっしょに進める楽しさを味わう。
<p>時間</p>	<p>△予想される幼児の活動</p>	<p>○環境構成 ★教師の援助</p>
<p>9:30</p> <p>△教師の周りに集まる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指遊びをする。 ・言葉遊びをする。(しりとり遊び) ・今日の活動について話し合う。 <p>△好きな遊びをする。</p> <p>こま回し・カルタ取り・トランプ・羽根つき・ケン玉・あやとり・たこ揚げ</p> <p>【遊びの配置図】</p> <p>10:30</p> <p>△片付けをする。</p> <p>△話し合いをする。</p>	<p>△指遊びや言葉遊びをして、楽しい雰囲気を作る。</p> <p>○安全面について子ども同士で話し合う場を作る。</p> <p>○それぞれのコーナーの配置を工夫して室内を広く取ったりする。</p> <p>★教師もいっしょに遊びながら、こま回しのコツをさりげなく伝え、あきらめずに挑戦する気持ちを大切にする。</p> <p>★正月遊びに経験した遊びやルールのある遊びに、取り組むことができるように左記の遊び図のように構成する。</p> <p>★互いに声をかけたり、励まし合ったりして、友達と心を通わせながら遊ぶように、援助していく。</p> <p>★人とのかかわりをはぐくみながら、友達同士で話し合う場や共感し合う場に目を向けながら援助する。</p> <p>★たこ揚げをする子は、安全面に十分配慮する。園庭を使用することを知らせ、他の教師とも連絡を取っておく。</p> <p>★遊び方を受け入れながら、みんなと遊ぶためにルールを相手に分かるように伝えたり、共通にしたりする必要がある事に気付かせる。</p> <p>★一人一人の幼児がしようとしていることや工夫したことを認め、自身をもって取り組めるようにする。</p> <p>★楽しかったこと、気付いたこと、困ったこと、発見したことを互いに伝え合うように援助する。</p> <p>★頑張っていた子を誉め、他児にも知らせて、認めさせる。</p>	
<p>反省評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・互いに友達のよさを受け止めることができたか。 	

(6) 検証保育（本時）の評価

① 遊びの工夫の面から

- ア 遊びの工夫ができるように、空き缶やフラフープなどの素材を用意したことにより、園児は試行錯誤しながら、自分達で遊びを工夫して進めていく姿が見られた。
- イ 環境構成を教材や素材（ビニールテープ・フラフープ、空き缶・座布団）を整えたことにより、遊びの高まりが見られた。」
- ウ こま回し・カルタ取りでは、挑戦したり、繰り返し試したりする場づくりができていたので、いろいろな回し方やカルタ取りを楽しんでいた。
- エ 凧揚げで、凧を豊富に用意してなかったが、自分達で順番を決めて、遊びを進めていた。

② 教師の援助の面から

- ア 日案を練ったことにより、活動の見通しを持って、幼児を見守ることができた。
- イ 教師の言葉かけにより、片付けや着替え等、基本的な生活習慣が身に付いていて、良かった。
- ウ 子ども同士が励まし合ったり、声をかけ合ったりすることが少なかった。
- エ 教師は、幼児といっしょに遊びに取り組んでいたが、互いのよさを認め合えるような、言葉かけや援助が足りなかった。
- オ 活動に取り組もうとしない子、困っている子に対しての言葉かけが十分でなかった。

(7) 本時のまとめ

- ア 教師が、環境構成を工夫することにより遊びが高まり、仲間同士会話をして自分たちで考え、遊びを進めて楽しむことができた。
- イ 幼児同士が、友達のよさを認め言い合えるように、まずは教師が意識し、機会を大事にして他児にも知らせていくことが大切である。
- ウ 友達といっしょに考えたり、工夫したりする機会がなかった子には、自分の力を発揮していく心地よさを味わえるよう、促していくように援助する必要があることを再認識した。
- エ 他の幼児と試行錯誤しながら遊びを展開する楽しさや喜びを味わうことができ、幼児が互いにかかわりを深め協同して遊ぶようになった。
- オ 今回の正月遊びでの充実感・達成感を次の遊びへつなげていけるように、話し合いをして楽しく取り組めるようにしていきたい。
- カ 正月遊びを通して、他の幼児とのかかわりが深まり、互いに必要な存在であることが分かった。そのことによって、クラスの一人一人の存在の大切さを知り、人とかかわる力がはぐくまれた。

VI 研究のまとめ

本研究においては、園生活の遊びを通して年間を見通した「人とかかわる力をはぐくむ」ための教師の援助のあり方を探りながら、保育実践を繰り返し行った。実践の結果（保育実践①②③）で分かったことをまとめる。

1 遊びの工夫と援助のあり方から

遊 び の 工 夫	保育実践①より （表現遊び）	・気の合う友達同士やグループの友達と構成して表現遊びを楽しむ中で、その嬉しさが活動への意欲につながるということが分かった。 ・思い切り、のびのびと活動できる場作りが大切である。
	保育実践②より （親子ムーチャー づくり）	・親や祖父母とじっくり取り組める時間や場を確保していくことが大切であると痛感した。 ・伝統行事を行うことで、「生活の知恵」を知るようになるが、核家族や都市化という現状であるので、その大切さを継承していく必要性がある。

	保育実践③より (正月あそび)	<ul style="list-style-type: none"> 活動にじっくり取り組める素材や用具を用意したことで、遊びの高まりが見られた。 友達や教師といっしょに遊んだり、試行錯誤していく中で、友達や仲間の存在感も分かるようになり、人的環境も大切であると再認識した。
教師の援助	保育実践①より (表現遊び)	<ul style="list-style-type: none"> 活動を振り返る場をもち、友達のよさを認め、クラス全体へ言葉で知らせたりすることをして、友達とかかわる充実感を味わった。 幼児の思いを十分に受け入れて、思いに寄り添った援助をするゆとりをもちたい。
	保育実践②より (親子ムービーづくり)	<ul style="list-style-type: none"> 下準備からしていくことで、皆なで協力してひとつのことに取り組み、協同性の楽しさを味わうことができた。 祖父母、親とかかわり、親しみをもち、人とかかわることの楽しさや喜びを味わうことができた。
	保育実践③より (正月あそび)	<ul style="list-style-type: none"> 伝承遊びに取り組む中で、友達と互いのよさを認め合い、励まし合って、心を通わす事が大切である。 活動を振り返る場において、友達のよさをクラスの子へ知らせることによって友達とかかわる充実感を感じられる言葉かけの援助が大切である。

上記の表で、幼児が「人とかかわる力をはぐくむ」ためには、友達と互いのよさを認め合い、励まし合って、心を通わす事が大切である。また、教師が幼児一人一人のよさを他児にも知らせ、友達とかかわる充実感を感じられる言葉かけをすることが、人とかかわる力がはぐくまれることになることが分かった。

2 幼児の変容から

全体的に変容が見られたが、特に変容が著しかった3名の幼児を抽出し、「幼児の姿の変容」を下記の表で記載する。

性格	幼児の姿 (事前9月の頃)	幼児の姿の変容 ・ 教師の援助 (事後1月の頃)
I児は、ひとりっこで、やさしくはにかみやである。友達も多く、女の子からも人気がある。が、活動への意欲がない。	落ち着いて話を聞くことができず、家でも園でも注意を受けることが多かった。自分のことは自分でやるが、友達に誘われるままの姿が見られた。	頑張りを誉め、他児にも知らせて認めさせ、みんなの前で表現遊びを披露させた。その後、自信をもち、落ち着きが見られ、他児とかかわり意欲的に活動に取り組む姿が見られるようになった。他の職員から誉められることが多くなる。
M児は、とてもしっかり者であるが、他児にはっきりとものを言い、強制的に要求することがあったりして協調性に欠ける面がある。	他児にも教えてあげたり、クラスのリード役になっていた。時々、仲間外れにされたりして教師に訴えたりしていた。	M児の得意なことを誉め、他児に知らせて認めさせたことで、他児とかかわるきっかけとなった。すると、苦手な活動にも進んで取り組む姿が見られるようになり、更に意欲を示し、友達と活動する充実感を味わっている。
K児は、集団生活が全く初めてで、消極的であるが、とても楽しみにしての入園である。	園生活にも慣れ、気の合う友達が見つかり、友達関係もとてもいい方向へ向かっていた。興味をもって、進んで運動遊びに取り組んでいた。	いっしょに活動したり話しを聞いてあげて、友達との遊びに誘い入れるように援助してきた。表現遊びを人前で披露する事ができたことで、自信を得て、正月遊びを経験して好きな遊びに組み込み、友達の存在感が分かり共感性が育った。

Ⅶ 研究の成果と今後の課題

1 研究の成果

- (1) 教師が援助や遊びの工夫をしたことで、人とのかかわりをはぐくむことができた(Ⅵ—1)。
- (2) 3回の保育を通して、幼児の変容が見られ、人とのかかわりが育った(Ⅵ—1・2)。

2 今後の課題

- (1) 人とのかかわりにおいて、全クラスとのかかわりがもてるように、取り組むことが必要である(Ⅵ—1・2)。
- (2) 発達を促す援助のあり方を探るために、日々の保育記録を積み重ねていくことの定着を図る(Ⅵ—1・2)。

<主な参考文献>

文部科学省	『幼稚園教育要領解説』	フレーベル館	2008年
森上史郎 編著	『保育内容 人間関係』	ミネルヴァ書房	2003年
田村和美 編著	『保育内容 人間関係』	建白社	2009年
河邊貴子 編著	『遊びを中心とした保育』	萌文社	2005年
無藤 隆 編著	『新幼稚園教育要領 ポイントと教育活動』	東洋館出版社	2009年
小田 豊 編著	『新たな幼稚園教育の展開』	東洋館出版社	2003年